

くまびょう

89号

NEWS

くまびょう
NEWS2004年
11月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

救命救急センターよりご報告

救命救急センター部長
高橋 毅

朝夕冷え込むようになって参りました。今年8月に当院の救命救急センターが1周年を迎えたご報告を致しましたが、今回、厚生労働省による全国170の救命救急センターに対する平成16年度の評価が行われましたのでご報告します。

救命救急センターの評価については、救急医療体制基本問題検討会報告書(平成9年12月)における「既存の救命救急センターを再評価し、その機能を強化する」との提言等を踏まえ、平成11年度から救命救急センター全体のレベルアップを図ることを目的として実

施されております。

評価方法は、重症患者数、平均在院日数、病床利用率、診療点数、院外患者受入率などの他、救命救急センターの勤務体制や診療体制、研修体制、それから、救急救命士の研修受け入れなど24項目で採点されています。今回当救命救急センターにとって初めての評価を頂いたわけですが、おかげさまで充実段階Aの評価を頂くことができました。救命救急センターの重要な役割の1つとして、救急隊とのメディカルコントロール体制の構築ということがございます。また救急隊員の研修、教育は、救命救急センターの要件にも揚がっている大切な役目であります。当救命救急センターにおいても救急救命士の臨床実施修練、救急症例検討会を行い、さらには救急隊員による学会発表、論文作成にも最大限の協力を行っております。

今後とも御指導のほどよろしくお願い致します。

国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

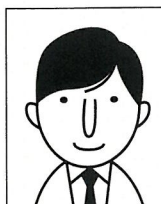
登録医証につきましては、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。

発行をご希望の先生は、管理課庶務係(TEL 096-353-6501 内線390)までお申し込み下さいますようお願い致します。

なお、写真は時間内であれば院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、外来駐車場にて駐車券をお取り頂き、医事0番窓口(時間内)又は、時間外受付(時間外)にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証

熊本市医師会
熊本 太郎平成16年1月1日交付
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
3. この証を紛失又は破損したときは、速やかに再交付の手続きを行って下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。



地域完結型医療の充実を目指して

青磁野リハビリテーション病院
院長 金澤 親良



当病院は国立病院機構熊本医療センターとは歩いて10分の距離しかない島崎町にあります。島崎町は西は金峰山、東と南はJRと井芹川、北は本妙寺山に囲まれ市内に近いわりに静かであり外からの人の出入りがなく、地域意識が昔から高いところです。町内の夏祭りには5,000人以上の人が集まり日頃からの近所付き合いも多く、道を歩いて挨拶をする習慣も残っている町です。

昔からの歴史のあるこの地域の人から求められ

る医療をおこなっていくうえで国立病院機構熊本医療センターには本当に日頃からお世話になっています。地域完結型医療の概念のもとに急性期医療機関と私たちのような回復期から在宅を担う医療機関との連携を積極的に進めることで地域の人たちが安心して医療を受けることができると思います。この数年の間でこの連携について色々と具体的な試みを国立病院機構熊本医療センター主導で取り組み、そのひとつとして疾患別に連携パスを作成し、実際に多くの症例に運用しています。民間医療機関に対して広く門戸を広げられ、地域医療の充実に対して積極的に取り組んでおられる姿勢に応えられるよう私たちもさらに努力していくつもりです。

患者さんを取りまく環境は経済的困窮、家族内の問題など、特に高齢者では治療としての医療行為だけでは解決できない社会的要因で在宅困難な症例が多いのが現状です。急性期病院で治療を受けられた患者さんが、その後どんな状態でどこどのように生活されているのかを私たちが急性期病院にフィードバックすることで本当に患者さんにはどんな治療が必要なのかを一緒に検討できれば、さらに医療の質の向上につながると思います。これからもよろしくお願いします。

パネリストの御発言 「国立病院機構熊本医療センター開放型病院の利用について」その2

第17回開放型病院連絡会のパネルディスカッションでのパネリストの先生方の発表内容の要旨と病院からのご返事をお1人ずつ5回にわけて掲載します。今後の改善に役立てたいと思います。



わだ内科クリニック
和田 敏 先生

和田先生から「多数の患者を当院に紹介している。また在宅医療に力を入れているが、このような患者を必要時には当院に紹介している。患者の中には病状が悪いときには自分で救急車を呼んで国立病院機構熊本医療センターに行き、帰ってきてからその話を聞いたり

している。これまで通り門戸を広くして患者を受け入れて欲しい」とのご要望がありました。

お答え：患者様をご紹介頂き有り難うございます。救急車で来られた患者様には診察時に「かかり付け医」が有るか無いかを聞き、「かかり付け医」が有り患者様の同意が得られれば、「かかり付け医」に患者様が救急車で搬送されたことを含めて病状等を報告する事に行っています。この取り決め事項を今後さらに徹底していきたいと思っています。これからも「断らない救急医療」を行いますので、よろしくご依頼致します。

(副院長 池井 聡)

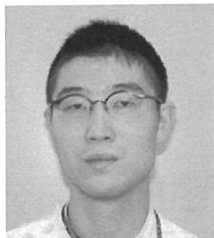
**2004年
診療科紹介(14)
皮膚科**



前川 嘉洋
皮膚科一般、膠原病、
アレルギー性皮膚疾患
(アトピー性皮膚炎、中毒疹)
日本皮膚科学会認定専門医
日本皮膚科学会代議員
日本臨床皮膚科医会九州支部長



三角 修子
皮膚科一般、皮膚形成外科
皮膚科救急



青井 淳
皮膚科一般

特 色

当院皮膚科は入院を要する患者さんの紹介を受け、いつでも受け入れできる体制をとっています。特に、アレルギー疾患（中毒疹、アトピー性皮膚炎）、膠原病（SSC、SLE、DM）、水疱症（天疱瘡、類天疱瘡）など全身管理が必要な方が入院加療をしています。平成16年10月から形成外科が新設されたことから、さらに外科的治療法の進展が期待されます。

診療実績

平成15年度の外来延べ患者数は15,166名（新来1,775名）で、新患率は11.7%でした。複数科にわたる方が多いため、どうしても再来患者さんが増えてきますが、近くの医（病）院での治療を勧めているところですので、継続診療につきましてはご協力のほどお願い致します。

入院患者数の累計は5,323名（1日平均14.5名）で在院日数は13.8日でした。手術室での手術件数は211名でデイスージャリーが増加傾向にあります。

外来担当医表

	月	火	水	木	金
新来	前川	三角	前川	青井	前川
再来	三角 青井	青井 三角	三角 青井	青井 三角	三角 青井

研究実績

- 1) 「成人型アトピー性皮膚炎の病態と難治化の解明、治療法の確立に関する研究」
- 2) 「強皮症」
- 3) 「培養表皮細胞の難治性皮膚潰瘍に対する応用」

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構 熊本医療センター ホームページアドレス

http://www.hosp.go.jp/~knh/

最近のトピックス

人工骨材料：リン酸カルシウム骨ペースト



形成外科医長
大島 秀男

近年、人工素材の開発とその臨床応用が盛んに行われていますが、骨欠損に対する補填療法としては、多くの症例で整形されたセラミクスが用いられてきました。今回はリン酸カルシウム骨ペースト（リン酸カルシウムセメント、以下CPCと略）を用いた骨・軟部組織の形態再建についてお話しします。

CPCは骨伝導能・生体親和性に優れた人工骨材料であり、小範囲の骨欠損に対する補填療法に利用されています。CPCはリン酸カルシウム粉末を溶解液と混合し、ペースト状にしてから使用するためモデリングが容易であり、様々な変型に対して良好な形態再建が可能になりました。形成外科領域では骨・軟部組織による変形の修復にも応用されるようになってきました。

例えば開頭術後や頭蓋骨再建後に生じた骨変形と側頭筋萎縮によると思われる側頭部の陥凹変形の再建法としては脂肪移植、真皮脂肪移植などの自家組織移植

がこれまで主流でしたが、CPCを用いて硬組織をaugmentationし、陥凹変形を治療できるようになりました（図1）。画像所見では術後のCT像でCPCは周囲の骨と同程度の信号強度を示しており、1年後のでもCPCの容積に変化はなく、CPCの吸収はなくボリューム効果に優れています（図2）。

このような特性から、CPCは頭蓋顔面領域の形態再建にも有用と考え、陥没骨折などに使用してきました。頭蓋顔面領域の再建では顔貌にかかわるため微細で正確な補填物が必要であること、荷重部ではないためCPCの強度でも十分な支持力が得られること、硬化したCPCの生体親和性は高く、補填したCPCの周囲には早期から骨形成が起こることが確認されていることなどから、CPCは非常に応用範囲の広い製材であると考えています。また、CPCはペーストの粘度を調節し、自由に補填物の整形ができるため、繊細な再建に適しています。従来のセラタイトのように形状が規格化されている製材では、欠損部に合うサイズの製品を選ぶか、三次元CTから製品を特注する必要があるが、術中微細な変形に対応するための加工はできませんでしたが、CPCの使用により精巧な再建が可能になりました。

今後とも症例を経過観察し、異物反応や再変形などが起きないことを確認していく必要がありますが、CPCによる補填療法は頭蓋顔面領域の形態再建に対して、患者さんにとって負担の少ない安全で簡便な再建方法であると考えます。



図1

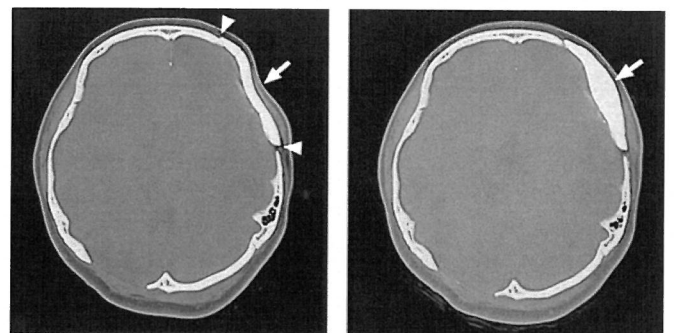


図2

研 修 報 告

ドクター・チャンレーを訪ねて



整形外科

福元 哲也

日本を出発して12時間後、飛行機の窓から外を見ると、辺り一面に緑が広がり、レンガ作りの建物が立ち並んでいました。あちこちに湖も見えます。空港に降りると黒タクシー、そう、ここはロンドンです。

Dr. Charnleyが、低摩擦人工股関節置換術の概念をうち立て、その手技と、安定した成績を報告したのは、1962年のことです。現在の人工関節の普及に最も影響を与え、飛躍的に発展させた整形外科医です。また、骨セメント固定法を追求した事でも知られています。今回、そのDr. Charnleyの技術を引き継ぐWrightington病院を見学すると共に、技術に関する勉強をさせて頂く機会を得ました。

病院に向かう途中、世界遺産であるビッグベルとウェストミンスター寺院を訪れ、その雄大さと美しさに圧倒されました。さらに近づく、建物に刻まれた彫刻のなんと素晴らしいこと、歴史を重ねた創造物の素晴らしさ、神々しさに、心を打たれました。

ロンドンから飛行機で1時間のマンチェスター空港に降り立ち、そこからさらに車で1時間の田舎町に、病院がありました。多くの著名人が、この病院での手術を希望し、訪れるそうです。病床数165床、年間1,000例以上の人工関節を行っているといいます。病院内には、CENTRE FOR HIP SURGERYが建っていました。Dr. Charnleyは、初期には、ここで十分な手技マスターをした者でないと、Charnley人工股関節は使用させなかったといいます。

講義は、Dr. Charnleyの後を引き継ぐDr. Wroblewskiを中心に行われました。人工関節固定でのセメントテクニックで大事なことは、セメントに気泡がはいらないようにし、骨髄としっかり固定させるために圧をかけ続ける事であり、これが長期成績を大きく左右します。当院でも、セメント内に気泡が混入し、数年で

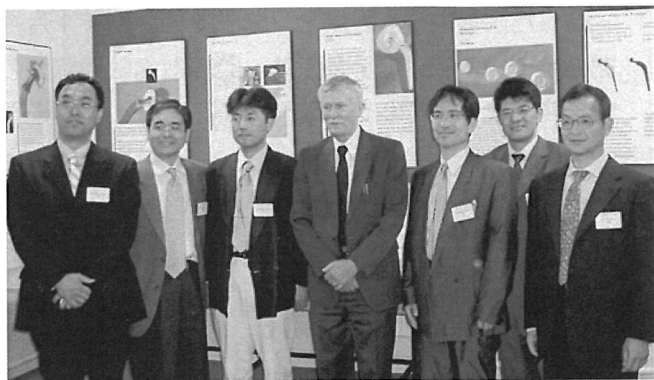
人工関節の入れ替えを余儀なくされた症例を、私自身経験しており、改めてその重要性を認識させられました。

病院内にある、Dr. Charnleyが使っていた作業場を見学しました。そこは、まるで小さな町工場のようなものでした。中には研磨機があり、何千という実験の試作品や検体が並んでいました。医師でありながら物理学に精通し、気が遠くなるほどの実験を繰り返したDr. Charnley、その努力に敬服すると共に、データから推論し、それを自分で裏付けていく事の大切さを強く感じました。私も、このような自分の手術の裏付けを行う実験をやってみたいと思いました。

ロンドン最後の日、私はロンドン郊外の駅に降りました。夕方4時にも拘わらず、1km以上の列ができています。2時間並び、やっと中に入れました。スコアボードの裏のコートを見ると、杉山がダブルスをやっていた。がんばれ杉山！男子ダブルスは、ボールがとても速く、上手でした。ここは、あのWIMBLEDONです。テニスを嗜んでいる私にとって、これは感極まる体験でした。

今回、5泊6日のイギリス研修に行かせて頂き、歴史のすばらしさを痛感しました。国立病院機構熊本医療センターにも歴史があります。そして今、生まれ変わろうとしています。今後当院が、新しい中にも、一貫した考えを持ち続けた、歴史ある病院になっていくことを、望まずにはられません。

最後に、研修に参加する機会を与えて頂いた方々に、深く感謝致します。



ロブロウスキー先生と

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

研修レポート

麻酔科

楠本 優



はじめまして。5月より国立病院機構熊本医療センターにて研修医として勤務しております、楠本優と申します。今春鹿児島大学を卒業し、郷里の熊本市で医療に従事したいとの思いから、2年間の初期研修をさせていただくこととなりました。どうぞよろしく願います。

本年度の前半は内科を中心に、後半は外科・麻酔科および救命救急の研修をさせていただく予定です。指導医および諸先生方よりご指導を仰ぎながら、基本的な診察治療技術の理解と体得に努めています。研修医としてさまざまなことを習得し、同時に医師として義務と責任を伴う身となったことに緊張感を感じつつ、院内での業務に従事しています。また、一社会人としてまず、患者様とご家族、そして病院職員の方々との良好な信頼関係を築くことが重要だと考えます。

本院が多くの診療科を標榜し、病診連携を確立している医療機関であることから、院内外の先生方より、患者様の診療および紹介を通じてご指導・ご鞭撻をいただいています。また、院内の医療スタッフの方々からも多くのことを学んでいます。そして何よりも、患者様に教わることの大切さを感じない日はありません。その点、恵まれた環境で研修を行うことができ本当によかったと思っています。この機を逸することのないよう、前向きな気持ちで取り組んで参ります。未熟者ですので、今後ともご指導・ご助言のほどお願い申し上げます。



研修風景

第10回 国立病院機構熊本医療センター-医学会の開催と演題募集のご案内

国立病院機構熊本医療センターでは、例年1月中旬に全職種参加の国立病院機構熊本医療センター医学会を開催しています。本学会では、開放型病院登録医の先生方による演題の発表も頂いています。本年も下記の要領で開催致しますので、ふるってご参加、ご応募頂きますようご案内します。

＝ 記 ＝

日 時：平成17年1月15日（土） 9：00～18：00

1月16日（日） 9：00～12：00

場 所：国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センターホール

内 容：一般演題50～60題および特別講演1題予定

一般演題へのご応募の際は600字以内の抄録（E-mail、フロッピー、原稿用紙に手書きのいずれでも結構です）を下記宛てにお送り下さい。

お問合せ・送付先：〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター医学会実行委員 内科医長 小堀 祥三

TEL：096-353-6501 FAX：096-325-2519

E-mail：skobori@kumamoto2.hosp.go.jp

■ 研修のご案内 ■

第70回 月曜会（無料） （内科症例検討会） 〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成16年11月15日（月）19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器科医長 森松 嘉孝
2. 持ち込み症例の検討
3. 特別講演「神経疾患を巡る最近の話題－診断と治療の進歩を中心に－」

熊本大学大学院医学薬学研究部神経内科学分野教授 内野 誠

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501（代表）FAX 096-325-2519

第40回 三木会（無料） （糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会） 〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成16年11月18日（木）19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 高度肥満を伴った思春期1型糖尿病の1例
国立病院機構熊本医療センター内科・循環器科 市原ゆかり、青木由香、大磯洋、石井規夫、高橋毅、東輝一朗、小堀祥三
2. インスリンアレルギーを呈した1型糖尿病の1例
熊本市医師会熊本地域医療センター 笹原誉之、魚住多恵子
3. 甲状腺機能亢進症による急性心不全の4症例 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科
大庭圭介、石井規夫、梶原一郎、高添啓二、宮尾雄治、藤本和輝

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501（代表）内線796

第66回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成16年11月24日（水）18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「意識障害」

国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 大塚 忠弘

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター神経内科 田北 智裕

国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科医長 杉 和洋

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）FAX 096-353-3515（直通）

第187回 初期治療講座（会員制） 〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成16年11月27日（土）15：00～18：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「精神科救急」

座長 熊本県立こころの医療センター院長 花輪昭太郎

1. 総合病院における精神科救急 国立病院機構熊本医療センター精神神経科医長 渡邊健次郎
2. 精神科病院における精神科救急 熊本県立こころの医療センター 大塚 直尚
3. 精神科救急医療の現状と問題点 千葉県精神科医療センター長 計見 一雄

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される方は1回会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

平成

16年

研修日程表

11月

月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

11月	研修ホール	会議室	ほか
1日(月)		17:00~18:00 病理・細胞診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
2日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
4日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
5日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
6日(土)	13:30~17:00 第62回 ナースのための救急蘇生法講座<会費制> 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 江崎 公明 ほか		
8日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
9日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 必・放射線科合同ウログラム C
10日(水)	18:00~19:00 第21回くすりの勉強会(公開)	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
11日(木)	19:30~21:30 歯科領域における救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センターICU室長 瀧 賢一郎 ほか		
12日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
13日(土)	13:30~16:30 第96回 看護卒後研修<会費制> 「人生のしくみ ~夢は必ず実現する~」 啓子メンタルクリニック院長 越智 啓子		
15日(月)	19:00~20:30 第70回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	17:00~18:00 病理・細胞診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
16日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
17日(水)	18:30~20:00 病薬連携研修会	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
18日(木)	19:00~20:30 第40回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
19日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
22日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
24日(水)	18:30~20:00 第66回 救急症例検討会 「意識障害」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
25日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会 熊本県支部研修会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
26日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
27日(土)	15:00~18:00 第187回 初期治療講座<会員制> [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本県立こころの医療センター院長 花輪昭太郎 「精神科救急」 1. 総合病院における精神科救急 国立病院機構熊本医療センター精神神経科医長 渡辺健次郎 2. 精神科病院における精神科救急 熊本県立こころの医療センター 大塚 直尚 3. 精神科救急医療の現状と問題点 千葉県精神科医療センター長 計見 一雄		
29日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
30日(火)	19:30~21:00 臨床口腔外科研究会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)